

# 平成26年（2014）10月 入域観光客数概況

10月の観光客数は、58万6,000人  
対前年（H25）同月比 +4万3,000人、+7.9%  
～外国客は早くも昨年度実績を上回る～

## 入域状況

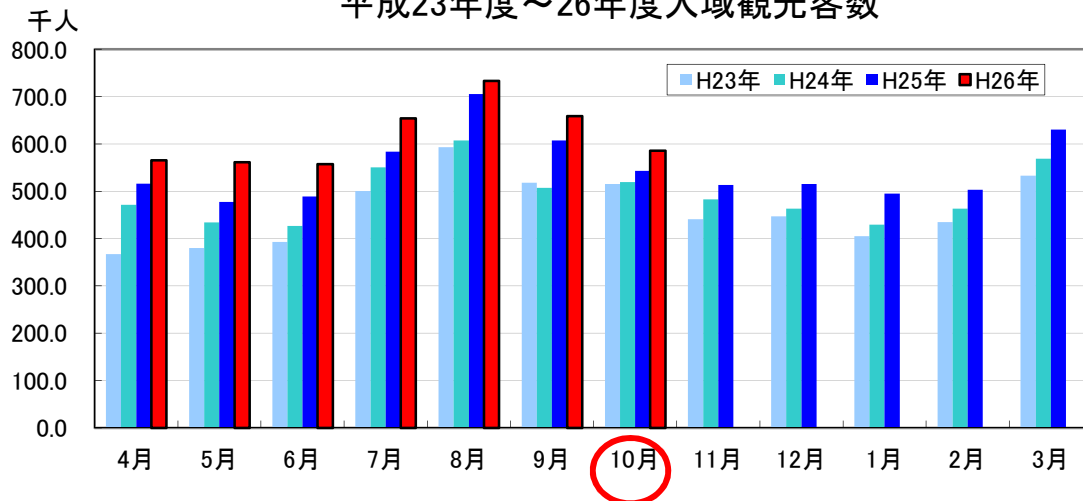
入域観光客数（平成25年度との比較） ※外国客については、乗務員等を含む

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
国内客	492,200 人	485,200 人	+ 7,000人	+ 1.4%	84.0%
外国客	93,800 人	57,800 人	+ 36,000人	+ 62.3%	16.0%
合計	586,000 人	543,000 人	+ 43,000人	+ 7.9%	100.0%

【参考】入域観光客数（平成25年度との比較） ※外国客については、乗務員等を除く

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
国内客	492,200 人	485,200 人	+ 7,000人	+ 1.4%	85.8%
外国客	81,500 人	49,200 人	+ 32,300人	+ 65.7%	14.2%
合計	573,700 人	534,400 人	+ 39,300人	+ 7.4%	100.0%

平成23年度～26年度入域観光客数



## 国内客 入域状況

10月は、2週連続の台風来襲により航空便の欠航およびキャンセルが発生し、月前半は大きく落ち込んだものの、後半は好調に推移し前年度を上回った。

11月は、ボトム期となり、夏場に比べやや鈍化するものの、各方面ともに堅調に推移する見込み。国内クルーズ船の寄港が予定されており、海路客の増加が期待出来る。

## 外国客 入域状況

10月は、台風の影響を受けたものの、国慶節など主要方面で連休があり、空路海路ともに好調に推移した。4月から今月までの累計で早くも前年度の年間客数を上回った。

11月以降は、冬場のオフシーズンとなる台湾・中国・香港がやや鈍化するが、増便やLCC2社の新規就航により、ソウルー那覇路線が大幅に拡充する韓国を中心に増加する見込み。

## 国内客 地域別入域状況

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	256,200 人	252,400 人	+ 3,800人	+ 1.5%	52.1%
関西方面	94,200 人	90,000 人	+ 4,200人	+ 4.7%	19.1%
福岡方面	57,400 人	57,100 人	+ 300人	+ 0.5%	11.7%
名古屋	37,300 人	36,900 人	+ 400人	+ 1.1%	7.6%
その他	47,100 人	48,800 人	△ 1,700人	△ 3.5%	9.6%
合計	492,200 人	485,200 人	+ 7,000人	+ 1.4%	100.0%

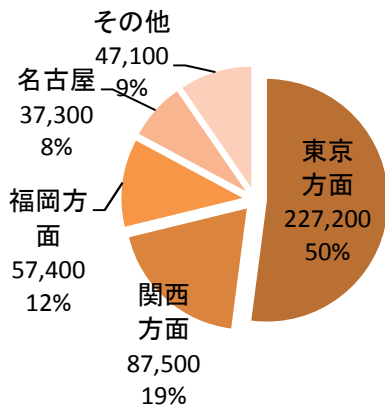
※国内海路客1,400人を含む(鹿児島:1,400人)

## 外国客 国籍別入域状況

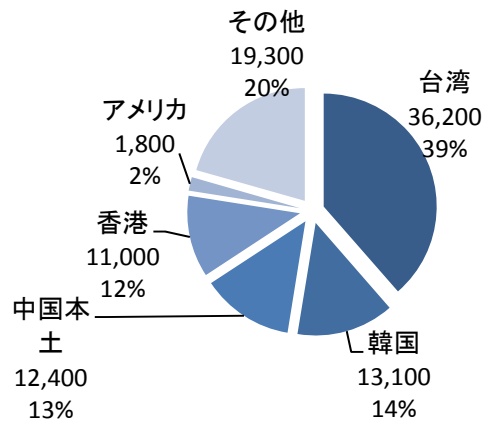
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	H26年度	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	36,200 人	36,200 人	25,600 人	+ 10,600人	+41.4%	38.6%
韓国	13,100 人	13,100 人	4,900 人	+ 8,200人	+167.3%	14.0%
中国本土	12,400 人	12,400 人	5,100 人	+ 7,300人	+143.1%	13.2%
香港	11,000 人	11,000 人	7,400 人	+ 3,600人	+48.6%	11.7%
アメリカ	1,800 人	1,800 人	900 人	+ 900人	+100.0%	1.9%
その他	19,300 人	7,000 人	13,900 人	+ 5,400人	+38.8%	20.6%
合計	93,800 人	81,500 人	57,800 人	+ 36,000人	+62.3%	100.0%

### 国内客の地域構成比



### 外国客の国籍構成比



## 外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	25,200 人	25,200 人	+40.8%	41.0%	11,000 人	11,000 人	+42.9%	34.0%
韓国	13,100 人	13,100 人	+167.3%	21.3%	0 人	0 人	-	0.0%
中国本土	8,100 人	8,100 人	+145.5%	13.2%	4,300 人	4,300 人	+138.9%	13.3%
香港	10,500 人	10,500 人	+41.9%	17.1%	500 人	500 人	皆増	1.5%
アメリカ	800 人	800 人	+60.0%	1.3%	1,000 人	1,000 人	+150.0%	3.1%
その他	3,700 人	3,700 人	+12.1%	6.0%	15,600 人	3,300 人	+47.2%	48.1%
合計	61,400 人	61,400 人	+64.6%	100.0%	32,400 人	20,100 人	+58.0%	100.0%

## 各方面ごとの概況と見通し

### 東京

10月は、台風18・19号の影響を受けたものの、下旬に盛り返し前年度を上回った。今年度は運休期間が無かったLCCが押し上げ要因となった。

11月は、修学旅行など団体旅行を中心に概ね好調に推移する見込み。10月下旬からのスカイマーク・JALの成田ー那覇路線の運休により成田からの入込は減少すると予想される。

### 大阪

10月は、予約状況は好調であったが、台風の影響でキャンセルが相次ぎ伸び悩んだ。引き続き伊丹ー那覇路線が好調であるが、提供座席は増加したものの搭乗率は前年度に比べやや低下しているため、さらなる需要喚起が必要である。

11月以降は、沖縄本島・離島方面ともに好調に推移する見込み。

### 福岡

10月は、台風の影響と前年度の九州ブロックPTA大会特需の反動減があったが、低価格帯商品やピーチアビエーションの福岡ー那覇路線が好調であり、ほぼ前年度並みとなった。

11月以降は、ANA・スカイマークの増便などにより前年度を上回る見込み。既存の競合地に加え、鉄道会社のキャンペーンにより、九州域内が新たな競合先となりつつある。

### 名古屋

10月は、2週連続で来襲した台風の影響を受け大幅に落ち込んだものの、パッケージ商品や団体旅行および名古屋ー石垣路線が好調であったことから、微増となった。

11月以降は、本島やパッケージツアーを中心に堅調に推移する見込み。

### 台湾

10月は、台風の影響でクルーズ船の寄港キャンセルや航空便の欠航が生じたが、月全体としては空路・海路ともに好調に推移した。

11月は、スタークルーズの運航が無いいため海路客が減少するものの、今年度は中華航空の台北ー那覇の冬季減便および台北ー石垣路線の運休が無いことから、前年度を上回る見込み。

### 韓国

10月は、建国記念日・ハングルの日の公休により旅行需要が旺盛であり、アジアナ航空の機材大型化(不定期)、ジンエアーのチャーター便や下旬からの増便により、空路客が増加した。

11月以降は、冬場のゴルフなどの需要が高まるほか、チェジュ航空・ティーウェイ航空の新規就航によりソウルー那覇路線が拡充することから、さらなる入込増が期待出来る。

### 中国本土・北京

10月は、国慶節連休による旅行需要の高まりに加え、天津航空の運航や連休中の大連発チャーターにより、前年度を上回った。

11月は、APEC開催により政府機関や学校等が公休(7~12日)となる北京からの入込が一時的に増加するものの、オフシーズンとなるため、全体としては夏場に比べ落ち込む見込み。

### 中国本土・上海

10月は、国慶節の大型連休があり、前年度より拡充した航空路線やクルーズ船の寄港により、空路海路ともに好調に推移した。

11月以降は、オフシーズンとなるが、10月末からの首都航空の杭州ー那覇チャーター便の新規就航により、空路客が増加する見込み。

### 香港

10月は、夏季に比べ団体・個人ともに需要が縮小しているものの、空路客を中心に前年同月を上回った。クルーズ船の寄港により海路客も増加した。

11月以降は、訪日旅行はUSJや紅葉ツアー等により関西方面の人气が高くなるため、沖縄方面は苦戦するが、前年度より拡充した空路を中心に増加する見込み。